

質 問 通 告 一 覧

第2回島田市女性議会
平成27年7月30日

島 田 市

◎ 発言順位

| | (頁) |
|------------------|-----|
| 1番 松浦優子さん(包括) | 1 |
| 2番 新間緑さん(一問一答) | 2 |
| 3番 横山香理さん(一問一答) | 3 |
| 4番 小澤奈帆さん(一問一答) | 4 |
| 5番 横田川秀美さん(一問一答) | 5 |
| 6番 杉野まち子さん(一問一答) | 6 |
| 7番 片川晴香さん(包括) | 7 |
| 8番 河村りつ子さん(一問一答) | 8 |

1. 1番 松浦優子さん (包括)

1. 新体制 妊婦の支援内容とその対象者枠について

平成27年度から市は「妊娠から出産後までのつながった子育て支援」を提唱し、今まで保健福祉センターで行われていた母親学級（いきいきママ教室）が無くなり、市内にある子育て支援センターが妊婦向けの集いを開催するなど、妊婦を対象とした支援も行うようになったそうだが、対象枠が狭すぎて逆に妊婦の足を遠のけているように見える。

- (1) 現在支援センターで開催されている集まりの主旨、構成、内容を伺う。
- (2) 実際にどれくらいの人に参加しているのか。
- (3) 「妊娠期からのつながった支援」とは具体的にどのような支援なのか。

2. 出産後のサポートについて

高齢者出産、晩婚化、核家族の増加などの社会背景により近年出産をした母親は、養生すべき産褥期（分娩後、母体が妊娠前の状態に回復するまでの期間）に、実家や身内を頼れず無理をして子育てをしているケースが増えてきている。

産後は妊娠期から負っている体のダメージが回復しておらず、不眠不休の母親業がスタートする大事な時期であり、産後うつ、早期離婚、児童虐待にもつながるデリケートな時期である。産後は身内だけではなく、第三者からのサポートも受けながら産婦が養生できるよう育児サポーターの利用告知をもっと具体的かつ分かりやすくすべきと考える。

- (1) 育児サポーターの利用期間は出産翌日からとなっているが、実際に産褥期に利用する人は、どれくらいいるのか。
- (2) 一般的に「産後は身内が世話をするもの」というイメージが根強いように感じるが、出産直後の母体のダメージが大きい時期からもっと育児サポーターを積極的に利用できるよう、赤ちゃんの父親や祖父母向けに働きかけることはできないのか。
- (3) 市で行っている「赤ちゃん訪問」では、赤ちゃんの健診以外に母親を対象とした働きかけとして具体的にどのようなことをしているのか。

2. 2番 新聞 緑 さん (一問一答)

1. 島田市の情報発信について

インターネットやソーシャルネットワークサービス（SNS）の普及に伴い、SNSを活用する人が以前に比べ増加している。しかし、島田市におけるSNSの活用は高校生から見ると不十分と思われる。

これらのことを踏まえ、さらなる活用方法について質問する。

- (1) 島田市の情報発信の現状について伺う。
- (2) 若者向けの情報発信におけるソーシャルメディアの取り組みについて伺う。
- (3) ソーシャルメディアを利用した観光PRの方法について伺う。

3. 3番 横山香理さん (一問一答)

1. 最近の投票率低下の問題と18歳選挙権成立に対する取り組みについて

近年著しい投票率の低下に歯止めをかけるため、18歳以上に選挙権年齢が引き下げられた。しかし、今後は教育の中に現在の政治課題等について生徒自身が考える場を設けることが必要であると同時に、投票したくても投票所まで行けない方々への配慮も必要と考える。

- (1) 近年の著しい投票率低下について、市長はどのように捉えているか。
- (2) 以前はディサービス等に投票箱を設置したが、今は置いていないと聞いている。その理由を伺う。
- (3) 現在私の父が脊髄損傷のため要介護5である。毎日ディサービスを利用している。投票所まで家族が連れて行くとなると大人2人で車に乗せて行かなければならず、非常に困難である。今後さらに少子高齢化が進む中、ディサービス、ショートステイ、グループホームや憩いのサロン等での投票のニーズが高まるのではないか。今後も施設等には設置しないのか伺う。
- (4) 選挙への関心を高める対策として、小、中、高校それぞれが議場を実際に見学したり、そこで模擬議会を開いてみたりする取り組みは可能か。また、市として何か取り組んでいく考えはあるか。

4. 4番 小澤奈帆さん (一問一答)

1. 文化事業の充実化について

小学生から高校生といった世代の子どもたちにはもっと芸術に触れ、多くのことを感じ、学びとってほしいと考えている。このような観点から以下について伺いたい。

- (1) 現在、小学生から高校生といった世代の子どもたちを対象に行われている文化的な講演会やイベントはどのようなものがあるか。
- (2) 子どもたちを対象とした文化的な講演会やイベントを増やして欲しいと考えているが、今後の計画はどのようなものがあるか。
- (3) 子どもの年代に適した文化事業を行って欲しいと考えているが、年代別のイベント等の開催は可能か。

2. 市内の放課後児童クラブの運営について

定員をオーバーして大変苦勞されているクラブがあると聞かすが、現在、どのような状況か伺いたい。

3. 白岩寺公園のトイレについて

白岩寺公園に設置されているトイレは旧式のタイプが使用されている。この公園は市民が散歩をしたり、小学生や幼児の遠足、ハイキングなどで利用されるなど多くの市民が訪れる公園である。市民からはこのトイレを使用する際に臭気などが気になり、使用を控えているとの声を聞く。公園を訪れる方のためにエコトイレなどを設置する必要があると考えるが、市長の考えを伺いたい。

- (1) 白岩寺公園内のトイレはいくつあるか。また、トイレはいつ設置されたものか。
- (2) 白岩寺公園内にあるトイレは設置後長い年月が経過していることから、トイレ周辺では臭気が滞るため使用を控えるケースがある。エコトイレの導入など環境に配慮したトイレにすることは可能か。
- (3) ハイキングやウォーキング、小学生や幼児など多数の人達が訪れているので、坂道の途中にトイレを追加することは可能か。

5. 5番 横田川 秀美 さん (一問一答)

1. 教育における地域差について

市内には18の市立小学校、7の市立中学校があるが、児童・生徒数が多い学校もあれば少ない学校もある。少人数の学校ではクラス替えがないまま卒業を迎えたり、中学校では部活動の数も限られている。学校にやりたい部活がないため学校外のクラブチームに入る場合もあるが、親の負担も大きく、共働き、核家族、片親などの事情により仕方なく他の部活に入るしかない生徒も少なくない。

地域格差が問題となっている今、せめて教育は「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と憲法第26条でうたわれているように、子どもたち一人一人に平等であって欲しいと一母親として強く思う。そのような観点から以下伺う。

- (1) クラス替えがなければ、小学校では6年間という長い時間を同じ子どもたちで共に過ごすことになる。いじめや不登校などの問題が起こったときに、どのような対応をされているか。
- (2) 中学校になると学業と共に部活動に力を入れる生徒も出てくる。神座小ではスポーツ少年団としてサッカーがあるにも関わらず、進学先の北中にはサッカー部がないためサッカーができない。署名運動などが行われても一向に動きがない。静岡県はサッカーの盛んな地域であり、小学校ではできて中学校ではできないというのは、もったいなく思うが、どのように考えているのか。
- (3) 北中は、パラリンピックでも活躍する有名なバスケットボール選手、藤本怜央氏の出身校であるが、男子バスケットボール部はなくなったままであり、サッカー部と同様、もったいなく思うが、どのように考えているのか。

2. 高校教育、そしてその先について

市内中学校卒業者の多くは、市内の高校へ進学している。また同時に市外の高校へ進学する生徒も少なくない。島田市の将来を考えると、若い世代が島田市に定住したくなるまちづくりが必要となってくると思う。やっぱり島田市がいいなと思ってもらうことが大切だと思う。しかし高校卒業後は市内に進学先がないため、どうしても市外へ出るしかない。島田市内に学ぶ場所を用意することで、人口流出が少しでも防げて更に人口も増えるのではないかという観点から以下伺う。

- (1) 市内中学校卒業者と市内にある高校の定員はどのようになっているか。また、市内中学校卒業者が市内にある高校へ進学する割合はどの程度か。
- (2) 学業を通じて市内に留まってもらえたり、将来的に戻ってきてもらえたり、人を呼んできてくれるような工夫はされているか。
- (3) これから先、島田市のために高校からの進学先を市内に用意する考えはあるか。

6. 6番 杉野まち子さん (一問一答)

1. 障がい者の雇用について

障がいのある方の雇用については年々拡大してきているが、法定雇用率2.0%に対して、民間企業における障がい者雇用率1.72%と達しておらず、平成30年には精神障がい者の雇用も義務化されることとなるなど、障がいのある方を雇用することの重要性はますます高まっている。島田市職員の障がい者雇用について伺う。

- (1) 市職員の障がい者雇用について、現在、何人雇用しているか。また、全職員に対して何%になるのか。
- (2) 障害者優先調達推進法について、島田市ではどのような取り組みをしているか。

2. 障がい者と暮らす家族への支援について

誰もが思う、自分らしく生きたい。障がい者の方の自立とは、どうやって自分の生活を賄うか、自分で選んだ地域で生活することができるか、将来について本人はもとより、ご家族の方も心配されていることだと思う。そこで、以下伺う。

- (1) 今後、障がい者のためのグループホームを建設する計画はあるか。
- (2) 障がい者の方が地域で安心して暮らせるために、今後どのような取り組みをしていくか。

7. 7番 片川 晴香 さん (包 括)

1. 島田市の子育て支援について

子どもの多い家庭にとって、過去にあった「さわやか子育て支援金支給事業」（3人目から30万円の金券）は本当に家計を助けてくれるありがたい制度だったが、以前のように出来ないとしても何らかの形で支援していただけると子育て世代にとって大変助かると考える。

- (1) 以前のような子育て支援は復活しないのか。また、その支援を受けた人は何人ぐらいいたのか。
- (2) それに代わる支援として、何があるのか。

2. 市立島田市民病院について

市民病院の小児科受診は月曜日と金曜日のみが初診受付、残りの日は紹介状がなくては診てもらえないというのは、充実した環境でわが子を診察してもらいたい小さな子どもをもつ親にとって辛いものである。ドクターの増加が理想だが、やはりそう簡単な問題ではないことを承知で伺う。

- (1) 現在の市民病院の小児科医は何人いるか。また、その人数は市の人口から適当といえるか。
- (2) 民間の大型病院を島田市に誘致してみてもどうか。

8. 8番 河村 りつ子 さん (一問一答)

1. 富士山静岡空港が開港して今年で6年目となり、市民はもちろん、県内や国内外からも多くの方が訪れている。

こうした中、富士山静岡空港の所在地である島田市、特に初倉地区は地元にも関わらず空港関連事業への参加やイベント交流などが少なく、地域の特性を生かしたアピールがなされていないと思われるが、島田市と富士山静岡空港との関連について伺う。

- (1) 島田市はどのような空港関連事業に参加しているのか。
- (2) 空港のターミナルビル内に島田市、牧之原市、吉田町のPRブースが設置されているが、島田市ではどのような展示を行っているのか。
- (3) 初倉地域から空港まで行く場合、車以外の交通手段が無い場合、交通弱者にとっては近くて遠い空港となっている。島田駅と空港をつないでいるバスの停留所を初倉地域内に設置することはできないか。
- (4) 富士山静岡空港へ来るお客様に島田市の特産品や地場産品などを物産販売し島田市をPRしたいが、湯日の交差点から空港に向かう取付道路脇にある、ソーラーパーク西側の県有地を借りて物産販売をすることはできないか。

2. 島田市が発注する備品及び建設工事は、市内業者に与える経済的影響が大きいと考える。そこで、以下のことについて伺う。

- (1) 島田市が発注する備品の購入及び建設工事については、市内業者を優先的に発注できないか。
- (2) 市内業者の経営状況が良くなれば税収も上がり、経済的に良い方向に向かうのではないか。見解を伺う。
- (3) 市内の建設業者は、市の建設工事の発注件数が減少していると感じている。この現状を市はどう考えているか。